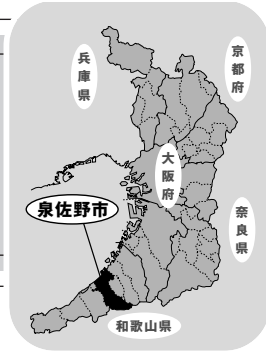
わたしのまちのPR（ピーアール）

泉佐野市編



泉佐野市は、大阪市と和歌山市のほぼ中間、大阪府の南部に位置し、北西は大阪湾に面し、南東は和泉山脈を境に和歌山県と接しています。内陸部は美しい山河、緑あふれる恵まれた自然環境にあります。また臨海部は、りんくうタウンを中心にしたまちと、旧集落を含む市街地が形成されています。さらに沖合には関西国際空港を擁しています。

近年、人口減少が始まったと言われていますが、**関西国際空港の玄関都市**であること、また南海本線とＪＲ阪和線の交通網を持ち、都心まで約40分とアクセスが良いことから、人口は微増傾向にあります。

この泉佐野市の特徴や強みといったことについて、市長公室まちづくり推進課長の龍神さんにお話を伺いました。

本日はどうぞよろしくお願いします。

早速ですが、泉佐野市といえばタオルが連想されるほど「泉州タオル」が有名ですが、それについて教えていただけますか。

よろしくお願いします。

泉州タオルは本市を代表する産業ですね。

明治５年にタオルが初めて輸入された当時は、高価なものであったことから、襟巻きとして利用されていたそうです。

明治20年、本市域内で浴用タオルの生産が始まり、**タオル工業発祥の地**となりました。タオル産業は国内２箇所で大規模に生産されています。本市と愛媛県今治市で国内生産量の95％以上を占めています。

タオルの製造工程の違いで、糸を漂白･染色した後に製織する「先晒タオル」と製織した後に漂白･染色する「**後晒**（あとさらし）**タオル**」に区分されるのですが、泉州タオルは後晒タオル、今治は先晒タオルとなっています。

後晒タオルは、より清潔で、縮みにくい、吸水性がよい、肌触りが優しい、純白度が高いという特徴があります。そのような泉州タオルを120年以上こだわり作り続けてきた匠たちがいたから、タオルといえば泉佐野、泉佐野といえばタオルと言われるようになったと思います。

泉州タオルの伝統を守るだけでなく、大阪府立産業技術研究所の支援を受けながら、本市・熊取町・泉南市・商工会議所・商工会・大阪タオル工業組合等で構成している大阪タオル振興協議会は、泉州タオルの特徴である肌触りの優しさを活かした介護製品などの商品開発も行っています。

官民一体となってタオル産業を盛り上げられていますね。まさに“タオルのまち泉佐野”ですね。

いや、「タオル王国」です。

平成元年に、市民と一体となり国際都市にふさわしい自主文化の創造と地域活性化を目指し、大阪タオル振興協会が「**タオル王国ＯＳＡＫＡ**」を設立しました。その大統領として本市の市長が就任しています。だからタオル王国なんです。

また、王国のマークは泉州タオルの産地マークとして商標登録しており、更に、地域ブランドとして平成16年に「泉州こだわりタオル」の商標登録を行い、本年１月23日付けで「泉州タオル」が地域団体商標に登録されました。さらに、今年度は、国の施

泉州こだわりタオルマーク

泉州こだわりタオル®

泉州タオルマーク

泉州タオル

策である「JAPANブランド育成支援事業」に大阪府で唯一採択され、タオルブランドの確立と国内海外への販路開拓に向け、各種事業を推進しています。

泉州タオルを“こだわって”世界に広めていただきたいと思います。
タオルを使ったイベントがあると聞いたのですが、どういったものなのでしょうか。

タオルは使い古すと雑巾になり、捨てられてしまいますが、タオルを丸めて墨に浸して用いると、筆よりも大胆で迫力があり温かみを併せ持つ文字を書くことが出来ます。このタオルの新たな使い方を利用して「タオルで描く絵てがみコンクール」を（財）泉佐野市公園緑化協会の主催により開催しています。今年の受賞作品の展示会を５月に開催される予定です。一度ご覧になればタオルの新しい一面を見ることができます。

市民の皆さんのタオルに対する愛情が感じられます。
次に、泉佐野の名物といわれるような食べ物はありますか。

大阪土産で、団子の中に甘辛いしょうゆだれが入っている新しいタイプのみたらし団子「大阪みたらし団子」は泉佐野生まれです。

関空ができたときに“新しい大阪土産を作ろう！”ということで考案されたものです。その商品開発者たちの熱意が伝わり、現在、関空のお土産のヒット商品になっています。

次は郷土料理なのですが、水なすの漬物はここ泉州地域が有名です。本市には「日根野あずきに上之郷なす」という諺が残っており、**水なすの発祥地は泉佐野市上之郷地区**と考えられています。

水なすを使った「**じゃこごうこ**」という料理はこの地域にしかありません。水なすの古漬けと大阪湾で獲れるピチピチはねるエビジャコと一緒に炊いた海・山の幸が一体となったお惣菜です。じゃこごうこを初めて聞いたほとんどの人は、チリメンジャコとたくあんを混ぜたものを想像されます。

郷土料理を後世に伝えていくため、じゃこごうこを小学校の給食の献立に取り入れています。子どもたちからの評判もいいですよ。

水なすの発祥地にしかない郷土料理というのは、貴重ですね。途絶えず後世に伝えていただきたいです。
ところで、話は変わりますが、国宝や文化財等に指定されている寺院があるそうですね。

本市にも数多くの寺院がありますが、お話のように国宝や文化財等の指定をされている寺院がたくさんあります。その中から、**慈眼院**（じげんいん）と**意賀美神社**（おがみ）を紹介したいと思います。

慈眼院の歴史は古く、673年に天武天皇の勅願寺として建立された泉州地域の最古刹です。度重なる戦火による焼失と再建を繰り返していますが、国宝に指定されている「**多宝塔**」と重要文化財に指定されている「**金堂**」だけ1271年に再建されてから焼失を免れています。

多宝塔は、高さが10m余りしかなく、小さくても優美で上品な姿は他に類がなく、石山寺多宝塔（大津市）・金剛峯寺三昧院（さんまいいん）（高野山）とともに**“多宝塔の三名塔”**と称されています。さらに、多宝塔内に安置されている大日如来坐像は平安時代の作で府の指定文化財に指定されています。

国宝　慈眼院多宝塔

柿経

金堂は再建された鎌倉時代の建築の特徴を残していると言われています。また、ここに奉納されている柿経（こけらきょう）は、鎌倉時代に幅１cm、長さ30cm程度の木片に経文が書かれており、渦巻型に束ねられています。これは、多人数による写経が浸透してきた当時の庶民の信仰を物語る貴重な資料であり、本市の指定文化財に指定されています。

なお、慈眼院の境内全体は、隣接している日根神社とともに日根荘遺跡として史跡指定がされています。

次に、意賀美神社は1442年に建立されたもので、春日造り※の建物です。この様式で建てられている神社では府内で一番古いものであり、重要文化財に指

意賀美神社

七宝滝寺

定されています。

この神社は、高龗神（たかおかみ）という山上の竜神を祀っています。竜神は水を司る神とも言われていることから、古来より雨乞いにご利益があると伝えられています。

※春日造り：春日神社の本殿に代表される神社建築のひとつ。正面に板扉、他は内面板壁。外面は白漆喰、柱は丹塗（にぬ）り。屋根は檜皮葺きで屋上に置千木（おきちぎ）と鰹木（かつおぎ）２本を置くのが特徴。

本当に伝統を大切にされているまちですね。
次に、おすすめの場所を教えていただけますか。

まずは、景色が綺麗で温泉もある**犬鳴山**ですね。

古来より、犬鳴山は女性の修行者が多く、女人大峰とも呼ばれています。山中には役小角（えんのおづぬ）が開いたとされる七宝滝寺（しっぽうりゅうじ）があり、現在も多くの修行者が訪れています。一般の方でも修行ができる修験道体験コースがあり、家族や友達同士のグループだけでなく、社員研修を兼ねて修行体験をされる会社もあります。

修行は嫌だという方は、犬鳴山のバス停から行者の滝までにある渓流と四季折々の景色に囲まれた参道をハイキングという楽しみ方もあります。年間を通して数多くの方が訪れますが、特にこれから暖かくなり、新緑が芽生え、清々しい季節になりますのでおすすめです。

ハイキングの拠点には温泉が湧き出ています。日帰り入浴だけでなく宿泊できる施設もありますので、ハイキングで疲れた体を癒すこともできます。

この他に、これからの季節は桜の名所である**大井関公園**と**日根神社**では心が癒されます。公園内では桜まつりが行われ、提灯等で桜の木々を装飾し、お花見の雰囲気を盛り上げます。また、公園の傍らを流れる樫井川の渓谷のみどりとその周囲をとりまく桜のコントラストは絶景です。

桜の季節が終われば、日根神社では**「まくらまつり」**が行われます。泉州地域では威勢良くだんじりを曳く秋祭りが有名ですが、この祭りは500年以上続いており、毎年５月５日に催される春祭りです。５ｍ程度の青竹を中心に毎年祭りの為に新しく作った枕25個を２列に幟として美しく飾り、神社からかけ声高々に長滝の御旅所まで半日かけてゆっくりと渡御します。この祭りは、豊作祈願や娘の良縁、新妻の安産祈願の意味合いがあります。

まくらまつり

桜や新緑で色鮮やかな風景が目に浮かびます。
都心部でのおすすめはありませんか。

「泉佐野ふるさと町屋館　旧新川家住宅」です。

この建物は、江戸時代の天明年間（1781～89年）に建設されたと言われている商家です。平成10年に改修工事が終わり、一般公開されています。また、市民の文化活動の場としても利用されています。

現在は六間取りとなっていますが、当時はクチノマ・ダイドコ・ナンド・ナカノマの四間取りでした。４つの間が田の字型でなく食い違った間取りになっているため、「喰い違い四間取り」と呼ばれ、江戸中期に大阪府南部から紀ノ川沿いに建てられた民家の特色でもあります。

江戸中期の町屋の建築様式を伝えるとともに、当

泉佐野ふるさと町屋館

時の生活道具なども展示されています。一見の価値は十分にあります。

この泉佐野ふるさと町屋館から海側へ歩いていくと、江戸時代の賑わいの面影を残す**いろは蔵**と言われる倉庫群が見えてきます。

これらの蔵は、ここ泉佐野を本拠地に北前船を操り巨万の富を築いた廻船問屋、食野家（めしのけ）の蔵です。いろは蔵と言われる理由は、蔵の数がいろはと同数程度のたくさんの蔵があったからです。

食野家も時代の荒波に飲まれ衰退していき、現在、屋敷跡は市立第一小学校となり、校内に松と井戸枠が残されているだけです。蔵も10蔵程しか残されていません。しかも、そのほとんどが蔵・倉庫として使われておらず、工場やアパートなどに転用されていますが、外観は当時のまま残されていますので、タイムスリップした感覚になります。

鎌倉・室町・江戸の各時代を代表する建物があり、建築物の歴史が探訪できますね。

あと、泉佐野市と言えば関西国際空港を忘れることはできませんね。

建築物の歴史なら、現代の建物というところでしょうか。

いよいよ、第２滑走路がオープンします。それを記念した様々なイベントが行われると思います。特に、３月25日には「関空第２滑走路ウォーク」が、５月13日には「2007新地球Run in KIX」として、第２滑走路を走るイベントが開催されます。飛行機より先に滑走路を歩いたり走ることができるのは、今回のように新滑走路ができる前か、新空港ができる前しかできません。関空の第２滑走路に限れば最初で最後となりますので一生の思い出になることと思います。

関空は単に飛行機に乗るためだけに訪れるのではく、家族や友達同士で遊びに行っても十分楽しめます。第２期空港島の現場見学ツアーでは、空港島の壮大なスケールを体感したり、グラスボートで空港島周辺の藻場を観察することができます。見学が終われば、関空展望ホールSky Viewには、機内食を食べることのできるレストランがありますし、展望フロアでは、世界の約50社の航空会社が就航している色とりどりの飛行機を見ることができます。初めて見るデザインの飛行機があっても、離発着状況の分かる電光掲示板がありますので、どこの国の航空会社なのかすぐに確認できます。夜には展望フロアを飾るイルミネーションとエアポートイルミネーションが作り出す幻想的な光の世界は、関空でしか味わうことができません。

また、対岸のりんくう公園から見る夜景も絶品です。空港連絡橋のライトが空港島に吸い込まれて行き、その先に空港島が光り輝いて見えますので、デートスポットになっており、数多くのカップルが訪れています。

最後になりますが、間もなく新年度が始まります。来年度の取組や今後のまちづくりなどについて教えていただけますか。

厳しい財政状況が続いていく見通しとなりますが、累積赤字を解消できる見込みとなりました。

そこで、財政健全化計画期間中に増やしていました公共施設の休館日を４月より元へ戻します。中央図書館では、平日・土曜日の夜間の開館時間を延長するとともに、試行としてゴールデンウィークを開館し、市民の皆さんの利用状況を見定めながら、休日の開館実施を検討していきます。

まちづくりについては、先程もありましたが、８月に関西国際空港の第２滑走路が供用開始されます。さらに、秋頃にはりんくうパパラ跡に大規模な集客能力をもつ複合商業施設がオープンする予定ですし、航空保安大学校や大阪府立大学りんくうキャンパスも順次整備が進めば、今まで以上に多くの方が本市を訪れると思われます。

そのためにも、世界と市民に開かれた都市（まち）への変革**「新生・開都いずみさの」**を目指し、新たなステージ**「未来（あした）のいずみさの」**の創造に向け、市民の皆さんとの協働による自立した行政を展開し、行政サービスも量から質への転換を図りながら、郷土「泉佐野」の一層の躍進を図って行きたいと決意しています。

「新生・開都いずみさの」を目指し、一層の躍進されることを期待しております。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。